

令和6年度小学校教科教育推進研修（国語科）研修成果物（指導について）

指導者 Bグループ 海田町立海田東小学校 栗原 法子
指導学年 第1学年1組 27名

1 単元名及び教材名

じどう車カードをつくろう

「じどう車くらべ」（光村図書「こくご1 下巻 ともだち」）

2 児童観

本学級の児童は、1年上巻収録の教材文「うみのかくれんぼ」の学習においても、列挙型の構成の説明的な文章を読んでいる。そこでは、「何が隠れているのか」「どのように隠れているのか」という問いに対して、答えが書かれている構成になっていることを確認した上で、問いに対する答えとなる語や文を選ぶ活動を行った。また、生き物の体の特徴が、問いに対する答え以外の部分に述べられていることに気付かせることで、文章の内容を正確に理解するための重要な情報であることを学んだ。しかし、文章の内容の大体は捉えているが、問いに対する答えを探してワークシートに記入する時に、必要となる言葉を抜け落ちてしまう児童が5名見られた。その際、かくれんぼをして遊んだことなど、誰かから隠れた体験は想起させたが、自分の体験と文章の内容とを結び付けて感想をもち、文章に書く学習活動はまだ経験していない。

これらのことから、本単元の学習を通して、文章の内容と自分の体験とを結び付けて感想をもつことができるよう、手立てを工夫する必要がある。

3 指導観

指導に当たっては、教材文の構成や内容を読み取り、教材文の内容と自分の体験や知識を結び付けてもった感想を「はたらきもの じどう車カード」に書き、3学期に交流する幼稚園児に伝えるという言語活動を取り入れる。そうすることで、本単元において文章を読む目的をもって取り組めるようにしたい。

教材文の構成と内容を捉える段階では、「しごと」と「つくり」が分かるようにキーワードとなる言葉に着目し、色分けをしながらサイドラインを引く活動を取り入れる。その際、「そのために」という接続語に着目させて、「しごと」と「つくり」に結び付けながら読むことで、内容を正確に把握できるようにしていきたい。また、文章と挿絵を照らし合わせたり、その自動車の動画を見せたりすることで、自動車の「しごと」と「つくり」がより分かりやすく確認できるようにする。

次に、2つの自動車を選び、自動車の「しごと」や「つくり」の相違点や共通点を見付けることで文章の内容に対する理解を深めさせたい。その手立てとして、相違点と共通点を色分けして整理したり、自動車の作りの部分ごとに挿し絵を見比べたりして、相違点と共通点を見付けられるようにする。

終末では、教材文に記載されている3つの自動車から1つ選び、自動車カードに①「しごと」と「つくり」、②自分の知識や経験、③前より分かったこと、④感想の4つの観点で整理させ、4つの観点が一つの文章になるようにまとめさせる。児童一人一人の知識や経験に差があることを想定して、同じ自動車を選んだ児童でグループをつくり、それぞれの児童がもっている知識や経験を伝え合えるようにしたい。その際、自動車に乗る体験に限定せず、自分もその自動車の仕事をしたような体験やその自動車のつくり に似ている道具を使った体験などについても伝え合うよう児童に働きかける。例えばバスの窓のつくりであつたら、自分の家の窓を想起させるなど、既存の知識や経験を結び付けて文章の内容を理解するという学習経験を確実に積めるようにする。また、自分の知識や経験をつなげて感想を書くことが初めてなので、教師の作った「自動車カード」を提示し、児童が書き方を確認できるようにする。単元の後半では自分の調べたい自動車について図鑑を使って調べ、これまでの学習で使った自動車カードと同じ体裁のものにまとめさせる。さらに、学校司書と連携し多くの自動車から自分の調べたい自動車を選択できるように、「しごと」と「つくり」が示されている乗り物に関する本や図鑑を置いておき、いつでも児童が手に取って調べられる学習環境を整える。

4 指導と評価の計画（全12時間）

次	時	学 習 内 容	評 価			
			知	思	主	評価規準・評価方法 等
一	1	○学習の見通しをもつ。 ・自動車の種類について、知っているものを話し合う。 ・範読を聞き、出てきた自動車や説明されていたことについて確かめる。 ・学習の計画を立てる。				
二	2	○文章全体を捉える問いの文や出てきた自動車を確認、内容の大体を捉える。				
	3 ・ 4 ・ 5	○教材文「いろいろな自動車」を読み、それぞれの「しごと」と「つくり」を読み取り、ワークシートにまとめる。 ・バスやじょうようしゃの「しごと」と「つくり」を見付ける。 ・トラックの「しごと」と「つくり」を見付ける。 ・クレーン車の「しごと」と「つくり」を見付ける。		○		〔思考・判断・表現①〕 ワークシート、発言 「読むこと」において、文章の中の重要な語や文を考えて選び出している。
	6	○バスやトラックやクレーン車の「しごと」「つくり」の共通点・相違点をワークシートにまとめる。	○			〔知識・技能①〕 ワークシート、発言 共通、相違など情報と情報との関係について理解している。
	7 (本時) ・ 8	○3つの自動車から1つ選び、自動車カードにまとめる。 ・①しごとと「つくり」 ②自分の知識や経験 ③前より分かったこと ④感想にまとめる。		○		〔思考・判断・表現②〕 自動車カード、発言 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもっている。
	9 ・ 10 ・ 11	○本や図鑑の中から自動車を一つ選び、自動車カードにまとめる。 ・①「しごと」と「つくり」 ②自分の知識や経験 ③前より分かったこと ④感想にまとめる。			○	〔主体的に学習に取り組む態度①〕 児童の様子 粘り強く、文章内容と自分の体験を結び付けて、自分の考えや感想を自動車カードにまとめようとしている。
三	12	○単元全体の学習を振り返る。				
		○（単元外）3学期の幼稚園児との交流において、カードを使って自分が調べた自動車について伝える。				

5 本時の学習（7／12 時間目）

（1）本時の目標

自分が選んだ自動車の「しごと」や「つくり」と自分の知識や経験を結び付けて理解を深めたことや自分の感想を書きまとめることができる。

（2）学習の展開

学習活動	○指導上の留意点 □主な発問 ・予想される児童の反応 ◆「努力を要する」状況と判断した児童への指導の手立て	評価規準 (評価方法)
1. 見通しをもつ。	□前時は2つの自動車を比べて「しごと」と「つくり」の同じところや違いを見付けましたね。 ○自動車の「しごと」の目的に応じた「つくり」になっていることを掲示している成果物を用いて確認する。	
2. めあてをつかむ。	じぶんの しっていることや けいけんを いれて かんそうをかこう。	
3. じどう車カードのまとめかたを確認する。	□じどう車カードのまとめかたを一緒に確認しましょう。 ○児童が学習の見通しをもてるように、書く内容の見出しと例文を提示する。 □自分が乗ったことのある自動車や、自動車の他に同じつくりになっているものを使った経験はありますか。 ○自動車に乗る経験だけでなく、同じつくりになっているものを使ったり、自分が知っていることも書いたりしても良いことを伝え、全ての児童が、文章の内容と既存の知識や経験を結び付け、文章の内容に対する理解を深められるようにする。 ・幼稚園に登園するために幼稚園バスに乗っていました。 ・トラックの荷台は、自分の家の押し入れの棚に似ています。 ・ショベルカーのつりあげるための長いうでとひっかけるところがつりざおに似ています。 ◆自動車と同じようなつくりになっているものの写真を提示することで、イメージできるようにする。	
4. 教材文の3つの自動車の中から1つ選び、じどう車カードにまとめる。	○自分の知識や経験を文章の内容と関連させて書くことをおさえる。 ◆色々な角度から撮られた自動車の部分の拡大写真を用意し、文章と結び付けながら考えられるようにする。 ○「自分の知識や経験」「前より分かったこと」の順番に書くことで、それらをつなげた感想を書くことができるようにする。 ◆同じ自動車を選んでいる児童でグループを作り、カードに書いた経験を伝え合う場を設けることで、さらに経験を引き出せるようにする。	〔思考・判断・表現②〕 「読むこと」において、文章の内容と自分の体験を結び付けて、感想をもっている。 (じどう車カード、発言)
5. 本時の学習を振り返り、次時の活動を知る。	○本時で分かったことや感じたことを振り返る。 ○次時では、違う自動車を選んだ児童でグループをつくり、自動車カードの内容を伝え合うことを伝える。	

(3) 板書計画

トラックの挿絵 資料・写真	めあて じぶんの しっていることや けいけんを いれて かんそうを かこう。 じどう車カードの例文 バス (しごと) 人をのせてはこぶしごと (つくり) ざせきのところがひろくつく つてあります。そとのけしきがよ く見えるように、大きなまどがた くさんあります。 (しっていることや けいけん) おりたいばしよに ちかづい たとき ボタンをおしたことが あります。 (まえより わかったこと) ボタンをおすと「つぎ、とまり ます」とアナウンスがながれて、 うんでん手さんとじようきやく につたえることができます。	じどう車くらべ
クレーン車の 挿絵 資料・写真	例文に関わる 資料・写真など	バスや じようよう車の 挿絵

6 指導の実際

(1) 指導上の工夫

① 視聴覚教材の活用

○自動車についての動画を見る時間を設け、自動車の「つくり」や「しごと」を教材文の挿絵だけでなく動画からも視覚的に捉えることで、文章の内容に対する理解を深めた。

② 「しごと」と「つくり」の色分け

○「しごと」と「つくり」を説明している言葉に着目し、色分けをしながらサイドラインを引く活動を取り入れることで、「しごと」と「つくり」は関連していると気付くことができるようにした。

③ 学習環境の整備

○教材文の挿絵、教材文に取り上げられている自動車と同じようなつくりがある物の写真、色々な角度から撮られた自動車の拡大写真を用意し、教室の壁に掲示しておくことで、児童の必要感に応じて確認できるようにした。

○単元の学習が始まる前から、学校司書と連携し乗り物の本や図鑑を廊下に置いておき、児童が読みたい時に自由に手にとることができる環境を整えた。



④ 構造的な板書やワークシート

- 第3～5時における、自動車の「しごと」に対する「つくり」であることを理解した上で「しごと」や「つくり」を表す語や文を選び出す学習活動では、「そのために」という言葉が「しごと」と「つくり」をつないでいると分かるように、板書やワークシートに矢印を用いた。

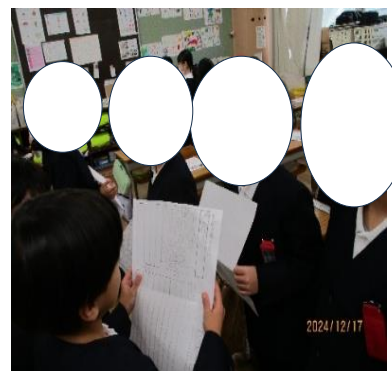
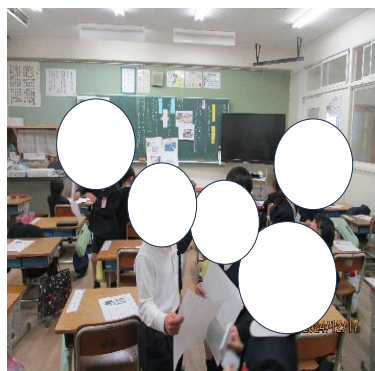


- 3つの事例の共通点や相違点の比較が容易になるよう、タイヤの数や窓などの自動車の部分ごとに表に整理させた。

バス・乗用車の挿絵	トラックの挿絵	クレーン車の挿絵
しごと 人をのせて はこぶ しごと 4つ	しごと にもつを運ぶ しごと 6つ	しごと おもいのをのり しごと 4つ
つくり 大きい ない×0 ない×1 スクのせる よくになが ある 3つ ない ある	つくり おもてんせき ない×0 ない×0 にもつをのり よくになが ある 4つ ない ある	つくり おもてんせき あり4 あり スクのせる よくになが あり 4つ あり あり

⑤ 気づきを伝え合う場の設定

- 選んだ自動車が同じ児童同士で分かったことや気付いたことを伝え合う場を設け、更に知識や経験を想起したり、理解を深めたりできるようにした。



(2) 児童のつまずきと実際に講じた手立ての具体

児童のつまずき	実際に講じた手立て
「しごと」と「つくり」を区別するのが難しい。	○「しごと」と「つくり」が分かる言葉に、色分けをしながらサイドラインを引く活動を取り入れた。 ○「しごと」に対する「つくり」であることを理解させるために、「そのために」に着目させた。
文章に出てくる言葉の理解が難しい。	○動画を見ることで、視覚的に文章の内容をイメージできるようにした。
自動車に乗った経験が少ない。	○同じ自動車を選んでいる児童でグループを作り、自分の経験を共有する場を設けることで、関連する経験をさらに引き出せるようにした。 ○自動車と同じようなつくりになっているものの写真を提示することで、説明されている内容を理解できるようにした。
自分の知識や経験を想起しにくい。	○教科書に載っていない、自動車のつくりの部分の拡大写真を提示することで、知識や経験を想起できるようにした。
感想の「前より分かったこと（しごと・つくり）」を書く時に「自分の知っていることや経験」につなげることができない。	○教師が作成した「良くない事例」を提示し、「前より分かったこと」を「自分の知っていることや経験」につなげるという意味を理解できるようにした。

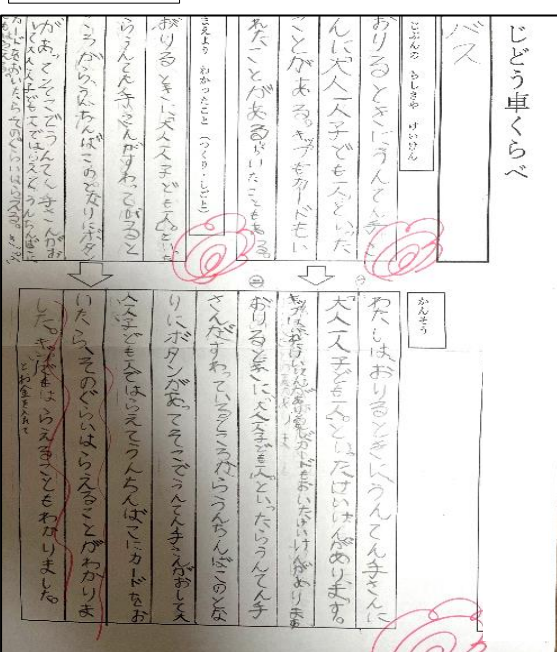
7 評価の実際

(1) 評価の具体

「十分満足できる」状況（A）

「自分の知識や経験」が「前よりわかったこと（つくり・しごと）」につながりがある文章になっており、つくりやしごとについて、前より分かったことが具体的に書かれたものを「十分満足できる」状況（A）にあると判断した。

児童①



バス

じぶんのちしきやけいけん
わたしは、おりるとき、うんてん手さんに、
「大人一人子ども一人」といったけいけんがありま
す。そのあと、きつぷを入れたり、カードをおいた
りしたけいけんがあります。
まえよりわかったこと（つくり・しごと）
おりるときに「大人一人子ども一人」といった
ら、うんてん手さんがすわっているところからうん
ちんばこのとなりのボタンをおします。そして、う
んちんばこにカードをおいたら、そのぶん、はらえ
ることがわかりました。

かんそう

児童②

じぶんのちしきやけいけん

わたしは、フカフカしているざせきでねたり、すわったりしたけいけんがたくさんあります。

まえよりわかったこと（つくり・しごと）

レバーのようなものをつかうと、ざせきがさがつたり、もどつたりして、フカフカなざせきでねれることがわかりました。

かんそう

児童③

じぶんのちしきやけいけん

わたしは、じょうよう車のまへのせきに、せんぷうきみたいなかぜが出るものを見たことがあります。

まえよりわかったこと（つくり・しごと）

せんぷうきみたいなのは、うんてんするせきと、しないせきのほうのまえに二つあります。かぜのおんどをかえるために、ボタンをおしておんどがひくくなったり、たかくなったりすることが、よくわかりました。

かんそう

「おおむね満足できる」状況（B）

「自分の知識や経験」が「前よりわかったこと（つくり・しごと）」につながりがある文章になっているものを「おおむね満足できる」状況（B）にあると判断した。

児童④

バス

じぶんのちしきやけいけん

ぼくは、車のまどをあけたことがあります。うちにもまどがあります。くうきをいれかえるためにあけました。

まえよりわかったこと（つくり・しごと）

バスのまどは、そのほかに、けしきが見えるようにしていることが分かりました。

かんそう

児童⑤

トラック

じぶんのちしきやけいけん

わたしは、トラックにアンダーミラーがついていることをしています。

まえよりわかったこと（つくり・しごと）

見えにくいところを見えやすくするために、アンダーミラーがついています。アンダーミラーがついているトラックとそれがついていないトラックもあります。

かんそう

児童⑥

クレーン車

じぶんのちしきやけいけん

わたしは、クレーン車にのったことがあります。そのときに、クレーン車のはしごにのぼったことがあります。

まえよりわかったこと（つくり・しごと）

上にのぼりやすいようにするために、はしごがあることがわかりました。

かんそう

※ 「十分満足できる」状況（A）にある児童との差異がないように見えるが、教師が複数回質問して児童の言葉を引き出したり、教師の言葉を引用したりすることで文章化できたため、「おおむね満足できる」状況（B）と判断している。

(2) 児童の評価

「十分満足できる」状況 (A)

5人 (20%)

「おおむね満足できる」状況 (B)

16人 (60%)

「努力を要する」状況 (C)

5人 (20%)

8 成果と課題

(1) 成果

単元に入る前から乗り物に関する本や図鑑を児童が手に取れる場所に置いておくだけでなく、様々な自動車に興味・関心をもつことができるように、早く学習が終わった時などに、教科書に出ている自動車以外の動画を見せた。そうすることで、自動車に乗った経験が少ない児童も、自動車についての知識が増え、文章の内容が理解しやすくなった。

バス、トラック、クレーン車の「しごと」「つくり」の共通点・相違点をワークシートに整理する活動では、「タイヤの数」や「窓の数」などに視点を絞って注目させることで、その他のつくりにも着目できるようになった。

本時で使用した「自動車カード」は、①「しごと」と「つくり」、②自分の知識や経験、③前より分かったこと、④感想の4項目を入れる予定であったが、①「しごと」と「つくり」は、第3～5時で作成したワークシートを活用することとし、②③④の項目のみが入った「自動車カード」に修正した。同じような学習活動を省くことで、本時で最も考えさせたいことに使う時間の確保につながった。

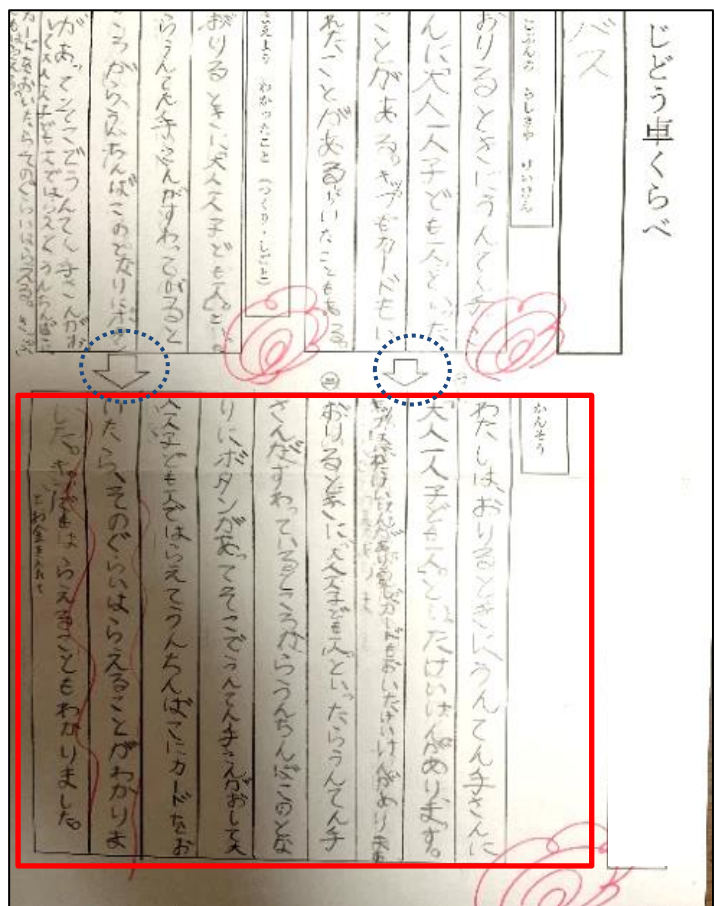
本時では、挿絵だけでなく、自動車の「つくり」の部分の拡大写真を提示することで、経験を想起できる児童が多く見られた。例えば「バス」だったら、「ボタン」、「つり革」や「運賃箱」などの写真を用意した。すると「降りる時にボタンを押したら、アナウンスが流れたよ。」や「座席に座れない時につり革を持ったよ。」など、経験を具体的に想起することができた。自分の知識や経験を結び付けることで、さらに文章の理解が深まることが分かった。

(2) 課題

文章の内容に対する感想を書く際には、「自分の知識や経験」につなげることで「前より分かったこと(しごと・つくり)」が書けるよう、例示しながら説明した。しかし、これを文章化できた児童は20%ほどであった。「おおむね満足できる」状況(B)の児童は、教師が複数回質問して引き出した言葉を引用することで文章化できた。「努力を要する」状況(C)の児童においては、教員が言語化できるように児童に質問をしてから書かせたが、「しごと」「つくり」と関係のない知識や経験を書いていた。そこで、挿絵や写真を見せながら、「しごと」「つくり」に関係のない経験が書かれていることに気付かせ、児童と一緒に修正を行った。

「自分の知識や経験」と「前より分かったこと」をただつなげた文章になってしまった児童が多く見られた。ただ繋げるのではなく、その2つを基にした児童の感想を導き出せるようなワークシートの構成や発問の工夫が必要であったと感じた。

また、本時では、「自分の知識や経験」と「前より分かったこと(しごと・つくり)」を入れた感想を書くまでを予定していた。



しかし実際には、1時間では「自分の知識や経験」と「前より分かったこと（しごと・つくり）」までしか書けず、その「感想」の部分は次時に記入させた。想定以上に時間がかかったため、9～11時で予定していた並行読書した本から選んだ自動車のカード作りでは、「しごと」と「つくり」の項目の記入のみしか行うことができなかった。これに伴い、「主体的に学習に取り組む態度」の評価は、教材文の事例についての「自動車カード」作成時の児童の状況の見取りに基づいて行った。

（３）今後に向けて

国語科に限らず「生活科」や「道徳」など他教科においても自分の知識や経験を振り返り、それらを感想の中に入れて書く活動を取り入れていく必要があると感じた。ただ、自分の知識と経験を入れて感想を書くのではなく、それらを、文章の内容に結び付けて書くことが大切である。そのためには、本文の内容を出てくる言葉に着目しながら文章の内容についての理解を深める過程が大切である。

その他、教科書に関連する図書の本を使って調べ学習に取り組むことで知識を広げたり、学校内でできる経験を増やしたりすることで、児童の既存の知識や経験を拡充するための下支えとしたい。

付録 選書リスト

書名	著者名	出版社名
光村の国語 やってみよう！楽しい ずかんづくり③ 「じどう車くらべ」ずかんをつくろう	高木 まさき（監修） 青山 由紀・松永 立志 （編集）	光村教育図書
くらべてみよう！はたらくじどう車1 しょうぼう車	市瀬 義雄 （監修・写真）	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車2 パトロールカー・きゅうきゅう車	市瀬 義雄 （監修・写真）	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車3 ブルドーザー・パワーショベル	市瀬 義雄 （監修・写真）	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車4 バス・トラック	市瀬 義雄 （監修・写真）	金の星社
くらべてみよう！はたらくじどう車5 せいそう車・じょせつ車	市瀬 義雄 （監修・写真）	金の星社
はたらくじどう車スーパーずかん① 町や人をまもる じどう車① しょうぼう車	小賀野 実 （監修・写真）	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん② 町や人をまもる じどう車② パトロールカー きゅうきゅう車	小賀野 実 （監修・写真）	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん③ こうじげんばではたらく じどう車 ブルドーザー パワーショベル	小賀野 実 （監修・写真）	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん④ 人やものをはこぶ じどう車 バス トラック	小賀野 実 （監修・写真）	ポプラ社
はたらくじどう車スーパーずかん⑤ くらしをささえる じどう車 せいそう車 いどうとしょかん車	小賀野 実 （監修・写真）	ポプラ社